

第5回の会場質問等への大沼氏の回答

2013.2.6 現在

No.	会場で回答済	資料ページ	種別	テーマ	内容	【ご回答】：講師(大沼淳一さん)より
1		3	意見	中電の考え方	中電は原発過酷事故は事実上起きないと考えているのか、起きる可能性は否定できないと考えているのか。これを明確にしておくことは原発問題を議論する前提	これは中電に答えていただくべき質問ですが、福島事故が起きてしまった今日、まさか過酷事故が今後は起きないと考えているとは思えません。また、小生の話の核心部分でもある、近代工学の限界性、すなわち、「全ての危険性に対処しようとしたら設計などできない」と述べた斑目原子力安全委員長の証言を思い出してください。
2	○	6	意見	採掘時の健康被害	この類のことはウラン採掘に限らず全ての原材料採掘で起きている。ウランだけをターゲットにして批判するのは全くナンセンスだと思う。	私は、現在フィリピン・パラワン島におけるニッケルの採掘と現地精錬に起因する環境汚染の調査と企業への改善提言を行っています。その前は、レイテ島PASAR銅精錬工場による環境汚染調査と告発活動も行っています。マレーシア・ブキメラ村でのARE社によるトリウム含有残土放置による健康被害事件の調査も行っています。いずれの案件も、日系企業が引き起こした環境汚染事件であり、そこで生成された金属や希土類は、工業立国日本を支える重要なマテリアルサプライヤーとしての役割を果たしてきたところでの汚染事件です。まさに汚染とその被害は、南北問題や不公平な構造の上で発生しています。ウラン採掘でも同様の構造があることをお話しただけで、他の原材料採掘で汚染が起きないと言っているわけではありません。また、これらに関わった経験から見て、ウラン採掘からウラン精製、濃縮、燃料加工、原発稼働、修理点検、使用済み核燃料の保管や処理、処分、そして事故時の広範な汚染というすべてのステップで生命と健康を害するというウランに関わる危険性は、他の元素を超えているとも考えています。
3	○	7	意見	評価の仕方	ウランだけが悪者になっていますが人間活動は光のあたる部分と影の部分と陰の部分が必ずあると思います。評価尺度によってどのようにも評価が下せると考えます。	影の部分すなわち負の部分に目をつぶってたれ流してきたことが過去の公害あるいは環境汚染を引き起こしてきたのです。たれ流しをやめて、コストをかけてきちんと処理をしなければならぬというのが、70年代に確定した法秩序であり、環境倫理だったはずで、外部不経済の内部化などという言い方もなされたと思います。中国で進行している環境汚染は、まさに汚染物質を外部不経済としてたれ流し、安いコストで生産した製品を安く輸出して経済成長しているわけで、かつての60年代日本の再現でしょう。その日本が進めてきた原子力開発は、他の産業と違って、核廃棄物の処分方法が未確定、したがって、そのコストの正当な支払いを棚上げし、過酷事故時の対策費も棚上げして進められてきたわけで、まさに外部不経済をたれ流してきたこととなります。そういうものをきちんと内部化し、内部化したところでコストバランスが取れなくなったら、それはやめるしかないわけです。私たちは、どんなことにも光と影があるものだというような情緒的な話をすべき段階ではないでしょう。評価尺度によって評価が変わるのでは議論になりません。そこを議論するのが我々の知恵でしょう。まさにそのために、こうした中部エネルギー市民会議のような場が設定されているではありませんか。
4	○	8	質問	温暖化対策	地球温暖化問題について(対策不要というご意見であれば別であるが)対策要とお考えであれば、脱原発と両立させることが(経済規模を縮小せずに)可能であるかどうか教えていただきたい。	会場でもお答えしたかと思いますが、もちろん対策は必要です。それを経済規模を縮小せずに実現できるとは思っていません。
5	○	9	意見	技術屋として	時間とお金をかけて全てが解決できれば技術屋は要りません。問題解決ができないので技術屋は悩むのです。大沼氏の超偏見の押し付けは技術屋として困ります。	このようなご意見が出るということは、本日の小生の話が全く理解されていないことを示しています。とても残念です。
6	○	12	質問	分析科学	3.11事故の分析は肝心なところすべて「原子カムラ(政・官・財・外・殿)」のバイアスがかかったデータに基づいている。これも科学で解明されない大きな要因では？	もちろんそういう側面もあります。ただ、本日の話は、バイアスがかかっていないとしても、不明な部分が出てくる、それが不確実性の限界を踏み越えつつある巨大科学技術の特性なのだということに力点を置いています。
7	○	14	質問	無事故の原発	福島第二・女川・東海の各原発が事故を起こさなかった理由はどうしてですか？福島第一1～4号機と福島第一5～6号機の違いはどこにありますか。お教えてください。	伝えられていることからすると、これらの原発も紙一重、危機一髪だったようです。それが大事に至らなかったのは、多分に幸運が伴っていたからでしょう。福島1～4でも、最悪の事態ではなく、かなりの幸運に恵まれてこの程度ですんでいるのだと思います。福島1～4との違いから、より安全な原発の開発へ向かいたいというのが質問者の意図でしょうが、それは従来型の右肩上がり科学永遠進歩仮説による考え方です。本日の私の話の核心は、すでに述べたように、不確実領域に踏み込んだ巨大科学技術は失敗が許されなくなっている、すなわち、「失敗は成功の母」という科学自身の発展原理を失っているということにあります。私は、今度のような事故をこれからも重ねながら進化、進歩を続けていくというやり方はもうやめにしようと提案しているのです。
8	○	22	質問	地震被害	最近、地震でも通常のゆれは地盤が弱いと大きい被害が出るとされていますが、衝撃波的な瞬時波があつて硬い岩盤ほど被害が大きいとありますが？	地震の専門家ではないので、よくわかりません。また、地震学はとても未熟な学問で、起こったことの説明が精いっぱい、予測などまだまだのレベルなのだと思います。しかも、研究費を増額してもらったところで、すぐに発展するような領域ではないと思います。
9	○	22	質問	地殻の動き	活断層があるかどうかが問題になっていますが、小松左京の「日本沈没」ではないが地殻の動きは列島そのものをマクロ的に考えるべきと思われるがどうでしょうか？	これも前問と同様です。私は専門家ではありません。マクロ的に見て日本列島が常に移動し、かつ、折れ曲がりつつあることからして、世界的に見て最も活断層の集中している地域の一つであることは間違いなさそうです。こんなエリアに原発を54基も建設し、高速鉄道網を敷設した我々の国は、科学技術楽天主義社会でしたね。
10	○	26	意見	危険な技術	原発より危険な技術を我々は使っています。(自動車、火力発電)にもかかわらず原子力を否定し自動車や火力発電を肯定するのはおかしい。	本日の話が理解されていないのは残念です。自動車や火力発電にも危険性があることは認めますが、それらが原発よりも危険だとする質問者の確信はどこから来るのでしょうか。
11	○	28	意見	原発と保険	リスクとベネフィットの関係から言えば「保険会社が保険を引き受けない以上原発の維持はNO！」が明々白々だと考える。	リスクマネジメント技術が発達させてきたのは保険業界でした。その保険会社が原発過酷事故を対象とした保険を商品化できなかったということは、原発がリスクアンドベネフィットのバランスがとれる対象ではなかったことを証明しているわけです。

No.	会場で回答済	資料ページ	種別	テーマ	内容	【ご回答】：講師(大沼淳一さん)より
12	○	29	質問	事故の発生確率	日本での原子力事故の発生確率500炉年/回?と表現されたが50基の原発があるとすると10年/1回でよいのでしょうか?	その通りです。
13	○	30	質問	遺伝子組替え	大沼さんは遺伝子組み替え、臓器移植は「すべきではない」技術だと考えているのですね。	その通りです。
14	○	45	意見	放射線の影響	世田谷のおばあさんはラジウムに30mSv/日を50年以上浴びていて92歳で亡くなったという報道があった。家族5人もその影響を受けていない。だから20mSv/年は安全だ。	こういう個別事例をあげても議論にはなりません。急性毒性でさえも、個体差は2~3ケタあるのです。まして、慢性毒性ではさらにさまざまな不確実因子は入ってきます。タバコをもくもくと吸っても肺がんにならずに長寿を全うする人さえいます。キュリー夫人のように、かなりの被曝をしても64歳まで生きた人もいますし、彼女の周りでは、研究者として期待されていた娘さんや、若い研究者たちが早死にしています。
15	○	45	質問	放射線の影響	100mSv未満は安全(大丈夫)という論文のほうはずっと多いと聞かすが実際はどうか?	私はこの分野の専門家ではありませんが、多分その通りだと思います。この分野には、核大国、国際原子力ロビーのバイアスが常にかかり続けてきました。広島長崎の被爆者の調査データさえもそのバイアスにさらされてきました。保険物理学などの有力国際雑誌では、低線量被曝の危険性に関する論文が排除され続けてきたとの指摘もあります。ウクライナやベラルーシからは、チェルノブイリ原発事故起源と思われる放射線被曝によるあらゆる疾病の報告が、政府報告書も含めて出されています。しかし、これらレポートさえもが、無視され続けてきました。
16	○	56	意見	放射線の影響	放射線の影響は「ガン」と言われているが、既に発病しているあらゆる病気に影響があると考えべきで、現在の原発再稼働なども放射線の影響をより高く考慮した情報を国民・政治家が得て、判断すべきと思う。	その通りだと思います。ウクライナやベラルーシで報告されているあらゆる疾病の急増(広島の被爆者に関しても、被爆者はあらゆる病気にかかりやすくなっているというデータが出ています)は、チェルノブイリ起源の放射能に由来のものだとして考えられませんが、ICRPやIAEAの専門家は「エビデンスがない」として切り捨て続けています。
17		66	質問	放射線の影響	ICRP(国際放射線防護委員会)は「集団実効線量を疫学的リスク予測に使用することは不適切でありこういう掛け算でがん死亡者数を計算することは避けるべき」としていたと思います。食生活やストレスの方が影響が大きいのでは?	ICRPのこの注釈については知っています。しかし、その根拠はあいまいだと思います。ICRPの対抗的組織であるECRRの展開する論理を批判するための注釈のようにも思われます。閾値なしの直線モデルを勧告しておきながら、低線量域への適用を嫌がっているICRPの態度は不可解です。リスク学の限界性はおのずと明らかで、かなり危うげであることは間違いありません。取り扱っている事象が不確実領域だから仕方がないのですが、リスク評価を切り口に分析しようとするときに、その限界性をわきまえておく必要があります。放射線被曝でも、がん死リスクしか問題にされていませんが、チェルノブイリ原発事故の被害を受けた地域では、がん以外の多くの疾病が報告されています。ベラルーシでは、心臓病死が突出しています。しかし、このことリスク評価はほとんどなされていません。また、リスクが人の死をエンドポイントとしているために、ガンになっても死ななければリスクとしてカウントされません。しかし、放射線被曝リスクを低く評価しようとしている人々は、一方で集団実効線量を疫学リスク評価に使うべきではないとしながら、一方で放射線被曝によるがん死リスクを定量的な数値であるかのごとく使う傾向があります。質問者の「食生活やストレスの方が影響が大きいのでは?」という問いも、多分にこれに毒されているようにも思われます。私が、例えば、ICRPの予測とゴフマンの予測との比較をして見せたのは、リスク評価による予測は、ファクターのとり方次第で桁違いの結果が出てきますということを、示したかったからです。どちらが正しいのかは誰にもわかりません。どちらも外れている可能性すらあります。他の原因によるガン死数が大きいですから。疫学という学問の限界性も示しています。その限界を超えている事象に対して、「エビデンスがない」「よって安全(?)」という言い方そのものが、不確実性を前にした科学者の態度としては問題があると思います。
18	○	70	質問	世論形成	「予防原則」に立てば、「科学的に不確実なことを理由に対策・処置を遅らせてはいけない」というが、これに「人工CO2による地球温暖化(不確実)を防止するために「(CO2を出さない)原発を活用すべし」となってしまう。これで「原発止やむなし」の世論ができあがったと思うがどうか?	地球温暖化対策を口実に原発リバイバルが仕組まれたことはご指摘の通りです。不確実事象に対処する手段として、さらに不確実性に富む技術を持ってきたところが根本的な間違いだったと思います。しかし、不確実領域で科学技術と人類がどうふるまい、どこをめざすべきかという観点での世界的な議論はまだ未熟でした。本日の私の話も、そこに焦点を当ててお話を進めたつもりです。
19		71	質問	予防原則	予防原則がリオサミットで確立されながら今年のリオ+20で福島の問題はクローズアップされなかった(ようである)日本は国際社会にどう訴えるべきでしょう。	予防原則については、ヨーロッパと比べて日本社会での理解はとて不足しています。国際社会に訴えるより前に、日本国内での理解を深める議論が急務です。予防注射の「予防」程度に勘違いされていることが多いというのが私の実感です。「科学的に明らかになっていないことを、予防的措置を怠る理由にはならない」というのは、なんとも理解しにくい表現です。なんとか、多くの人々に理解していただく工夫が必要です。それは単なる言葉上の表現方法ではなく、本日の主題である科学が進歩すればするほど広がってくる不確実領域の存在に対する理解が欠かせません。本日のいくつかの質問の中には、この主題が全く理解されていないことを示すものが見受けられました。話し手の粗相もありますが、科学技術無限発展神話に染まった人々との議論のむずかしさも示していると思います。
20		72	質問	予防原則	予防原則の話の中でカタルヘナ法に基づくGMO(遺伝子操作生物)の輸入許可の決定において予防原則を引用しているとあるが、だとするとGMOにOKを出すのは予防原則が死文化していませんか?	予防原則は、常にリスクマネジメントで乗り切ろうとする勢力とのせめぎあいにおいて、原則の単純な適用はとて難しい状況です。したがって、死文化しているというよりも、やや後退を余儀なくされていると考えるべきでしょう。
21	○	73	質問	科学技術の進歩	予防原則に則ったら科学技術の進歩はない。人類の文明を否定することにならないか?	地球的限界は明らかになりつつあります。知の限界も、本日話したように不確実領域に突入しています。この限界を知って科学技術をどの方向へ進めていくべきなのか、それを皆さんと共に考えて行こうというのが本日の私の話の主題です。この二つの限界を見て見ぬふりして、より速くより大きくを求め続けようとする態度は、科学的とは言えません。それは信仰です。

No.	会場で回答済	資料ページ	種別	テーマ	内容	【ご回答】：講師(大沼淳一さん)より
22	○	73	質問	議論の進化方法	上記(No.21)のような意見を持っておられる方々と予防原則に関する議論を深めるためにはどのような方法(仕掛け)が必要だと思いますか？	なかなか難しいのですが、粘り強く議論を続けるしかありません。
23		77	質問	スウェーデンの撤回	20年以上前に国民投票も行って脱原発と宣言したスウェーデンがなぜ3年前にそれを撤回したのか教えていただきたい。	スウェーデンの状況についてさほど詳しくはありませんが…スリーマイル島原発事故を契機に脱原発宣言したスウェーデンが、その後宣言の撤回に至ったことを、原発推進を望む人々がことさら強調するようですが、宣言の撤回イコール、原発ルネッサンスや原発増設ではないことを確認しておく必要があります。10基の既存原発の更新なら認めるということまでです。その原因は、脱石油依存が主軸で、脱原発と両立し損ねたところのようです。国民世論は、そもそも2本柱のうち、脱石油に主な重心がかかっていたとの報告もあります。この国のエネルギー需要は伸び続けていますから、再生可能系エネルギーの成長が追いつかなかったということではないでしょうか。脱原発社会に向かうということは、すでに述べたように脱成長社会、エネルギー消費が減っていく社会へ向かうということではなりません。そうでないと、地球は早晚壊れてしまいます。科学技術及び技術者は、まさにこの大転換のために英知を振り絞る必要があるのだと思います。
24		77	質問	代替エネルギー	原子力を止めたら何のエネルギー(電源)に代えますか？	風力、地熱、太陽光などが提案されているのは皆さんご存じのとおりです。日本は、技術においても実績においても一時はそのトップランナーでもあったのに、その後の日本政府の怠慢および原子力への偏重によって、今では国際的に見ても後塵を拝しています。しかし、ヨーロッパなどの先例を見れば、インセンティブさえかければ数年～10年で発電容量は飛躍的に増加するでしょう。ただし、同時並行でスマートグリッドの開発普及、周波数変換施設の拡大と電力融通送電網の充実も必要です。発電電分離も必須条件です。これらの再生可能系電力の変動の激しさを欠点として批判する方が多いようですが、もともと電力需要の方にも大きな変動があります。それを滑らかにするには、原発のような一定出力電源をベースロードにするのでは対応できないはず。需要の変動と再生可能系電力の変動を重ねて、オンオフが素早くできる火力や水力でバランスをとっていくしかないでしょう。これまでもそれはやられてきたわけ。これからは、原発の出力調整用に建設された揚水発電が、これらの多様な電源の調整に大きな役割を果たすでしょう。それでもなお再生可能系電力では不足するとしたら、それは省エネなどで対応していくべきでしょう。そもそも、これからさらに電力需要が伸びていくようなモデルでは、地球は壊れてしまいます。エネルギー消費量の抑制は、これまでそれを浪費してきた先進国の義務であり責任です。
25		79	意見	倫理当事者性	原発をすぐなくすことは現実的には難しいことだと頭の中では理解できますが、ずっとこの1年ぐらいいもやもやしていたところがスライド77、79で今すっきりした。やはり原発はなくすべきです。思っていたことをすばり言葉にしてくれたものです。	原発をすべて止めてしまうことはさほど難しくありません。現に、全ての原発が止まっても夏を乗り切ることが出来ました。代替えでフル稼働だった天然ガス火力のガス代が高騰したとして、電気料金の値上げが準備されているようですが、一方、1ワットも発電していない日本原発に年間700億円、六ヶ所村の核燃再処理工場に年間2700億円もの巨費が支払われ続けています。1ワットも発電していない高速増殖炉もんじゅにも毎年200億円ほどの税金が投入され続けています。福島事故の賠償金や除染にも数兆円の税金がつき込まれて、なおかつ適正な賠償からは程遠い状態です。まさに、原発のツケがこの国をがんじがらめにしているわけで、原発を止めたから赤字になって電気料金の値上げにつながっているというのはごく表面上の話にすぎません。
26		80	質問	放射線の影響	本日詳しくお話いただけませんでしたが、将来的リスクとして放射能のこども世代への影響は大きな問題だと思います。とりわけ放射性ヨード(I-131)により遺伝子への影響、甲状腺がんが急激に増えてくると予測されますがこの点についての大沼さんのお考えは？	チェルノブイリでは、甲状腺がんが急増し、今なお事故当時子どもだった大人で発症が続いています。次世代への影響を指摘する論文も出ています。すでに述べたように、ガンや白血病だけでなく、ありとあらゆる病気の増大がウクライナやベラルーシで報告されています。この事実を認めようとするICRPやIAEA、UNSCAREなどの在り方は、まさに核大国のバイアスの証明だと思えます。このような被害が福島でどの程度起きるのかどうかについては、私にはわかりません。チェルノブイリの教訓があつたにもかかわらず、日本政府の対応は最低でした。住民に対する情報提供、避難勧告も適性を欠き、遅れに遅れました。ヨウ素剤の服用もほとんどできませんでした。また、その後の放射線被曝被害を実証するための基礎的なデータの収拾にも手抜きやサボタージュがありました。福島県民に対する健康診断も不十分です。これらの不始末のツケが被害者の増大につながらないことを祈るのみです。本日の話の中で述べたように、年間30万人のガン死者がいる日本で、福島事故由来放射能によるガン死者が数千人でたところで、それを疫学的に立証することは困難です。それをいいことに、年間5mSvを超えるような地域に住民が住まされ続けているという事態も大変心配です。予防原則の立場から言えば、全員が避難するべきでしょう。この事態に対して、福島県や日本政府は最大限の努力をするべきです。最低でも子供たちの疎開や長期保養は必須です。数年して、甲状腺がんが顕在化した時では遅すぎます。
27		81	意見	原発推進も孫の為	原子力推進の人たちは「この子のため」でなく「この子の子ども(孫)」たちのことまで考えて技術開発をしている。そういうミッションを感じてやっている人を知っています。	原子力ムラの人々がすべて悪意で働いているとは思っていません。むしろ、善意と使命感で働いている方が多いのではないのでしょうか。そういう方々と、先入観なく冷静な議論が出来ることを願っています。この中部エネルギー市民会議は、まさにそういう場として設定されているのではないのでしょうか。
28		82	意見	言葉	市民会議では、様々な意見を聞くべきと思いますが「死の灰」とか「御用学者」といったレッテルを貼ることは避けた方がよいと思います。	「死の灰」は、すでに核分裂生成物の代名詞として定着しているのではないのでしょうか。また、原発の問題に限らず、「御用学者」すなわち「利益相反」に立場にありながら、中立的専門家を装う人々、あるいは、経済的・政治的なバイアスを受けて研究活動を行っている人々を「御用学者」と呼ぶことはさして問題ではないと思います。人は弱いものですから、だれでも「御用性」を持っています。権力に屈する自分、自己保全や私利に走りたくなる自分との闘いの中で生きているわけですが、その内なる「御用性」を認めつつ克己を尽くすというのが私のスタンスです。

No.	会場で回答済	資料ページ	種別	テーマ	内 容	【ご回答】：講師(大沼淳一さん)より
29		83	意見	温暖化への評価	地球温暖化問題は信憑性がないと主張され、この問題を避けて主張されたことは残念。地球温暖化によるリスクはあると考えます。	もちろん、地球温暖化対策を避けるべきではありません。その話はどなたかのご質問に答えて、会場でお話しました。穴の開いたスリッパをお示した時です。
30		84	質問	使用済み核燃料	使用済み核燃料の処分方法については特にコメントがありませんでしたが、現在の使用済み核燃料の方向性についての問題点(六ヶ所村満杯・埋立の方向?)を教示いただければと思います。	使用済み核燃料の再処理というのは原発稼働以上に危険性に満ちたプロセスです。なにしろ死の灰の塊である燃料棒を切り刻んで硝酸に溶かすという操作をするからです。このため、事故が起きなくとも、正常運転で桁外れの放射能を汚水やガスとして排出します。さらに、取り出されたプルトニウムは原子爆弾の材料となります。原子炉級プルトニウムは純度が低くて爆弾にならないなどという人がまだいますが、爆弾になることがすでに実証されています。プルトニウムを核燃料として燃やす原子炉も、ウランを燃やすタイプと比べて安定性が悪く、リスクが大きいことが指摘されています。こうしたもろもろの理由から、使用済み核燃料は再処理しないで、そのまま乾式貯蔵をして放射能レベルの低減を待つ方が得策だというのが世界の趨勢です。 また、六ヶ所村の再処理工場は事故と不具合が続き、年間3000億円ちかい金を喰いながら、何も進んでいません。プルトニウムと燃え残りのウランを取り出した後の高レベル廃棄物の処分方法が世界中で確定していないことは皆さんご存じのとおりです。純粋に経済面だけから見ても、再処理は破たんしているのではないのでしょうか。これからは、再処理事業から撤退し、原発も安全に廃炉とするための技術的検討、制度的検討が必要です。1ワットも発電しないで基本料金として電力各社から巨額の利益(まわりまわって私たちの電気料金に組み込まれている)を得ている日本原電を、廃炉会社として改組するべきだというプランを発表している人もいます。54基の原発を安全に廃炉するために、単一の専門会社が必要だとの見解です。
31		85	意見	公平性	発表者個人(川合さん)への意見(テレビ等で)マスメディアが市民にインタビューするときは賛否半々を放映する。今、原発に対する市民の声は行政が実施したアンケートでは多数(約7割)が「脱・反・卒原発」となっている。従って「半々が公平とするのはむしろ不公平」だと思う。	福島事故以前のマスメディアの不公平性はひどいものでした。電力会社の意見広告に関しても、大いに問題アリでした。あの莫大な広告費用が電気料金に含まれている不条理にも怒りがわきました。マスメディアはお金に目がくらんで、魂を売ったとしか思えませんでした。
32		86	質問	電力需給	右とか左とかイデオロギーとは関係なく、3.11福島原発事故以来、原発反対の考えです。脱原発(原発依存率0%)は当たり前のことであると思います。脱原発依存という言葉は理解できません。「脱」は原発依存を修飾する単語であると思います。今夏は原発0%の状況下節電だけで余裕で乗り切ったのではないですか？	環境やエネルギーの問題では右左は関係ないと思います。かつて原発賛成だった共産党系の人々とよく論争したものでした。 余談ですが、放射線被曝による健康被害について、基準などの議論をするときに、生命の安全を重視してより厳しい基準を求めざるやいかたを「保守的な」と表現します。福島事故の後で、当時の枝野官房長官が記者会見で、アメリカによる在日アメリカ人の80キロ圏避難勧告について問われて、「アメリカは保守的ですから」と答えたのも、保守・革新の保守ではなく、生命の安全を重視しているという意味だったのです。これは英語のConservativeの直訳だと思われます。外務省などの放射線基準などに関する文書でも「保守的」と訳された文書が出てきます。こと原発や放射能・放射線に関しては、生命の安全重視の立場が「保守」です。
33		87	質問	米国の核戦略	以前、中日新聞でカーター元アメリカ大統領へのインタビューが載っていて「高速増殖炉を日本に作らせる訳にはいかない。日本は核武装しようとしていると感じた」ともんじゆにに対し反対を唱えたとかかれていました。しかし今、現にもんじゆはあります。レーガン以降アメリカの核戦略(日本における)はどんな変化をしたんでしょうか。	改めて確認したわけではありませんが、カーターは若いころ原子炉を積んだ艦船で勤務した経験があり、原発の危険性について敏感だったという話を聞いたことがあります。また、カーター以前のアイゼンハワーのAtoms for Peace戦略が根底にあって、原発湯質戦略が開始されたことは良く知られています。これは、日本の原水爆禁止運動の矛先をかわす戦略だったということが多くの人々によって述べられています。慎重だったカーター政権が1期で終わって、元の路線に戻ったとも考えられます。 高速増殖炉に限らず、原発を稼働すれば使用済み核燃料の中にプルトニウムが蓄積し、それを精製すればプルトニウム型原爆(長崎タイプ)を作ることが出来ます。同位体分離をしなければならぬウランと違って、プルトニウムは精製が簡単だから、軍事転用の危険性ははるかに高いのです。こんな危険な原発を日本だけでなく世界中に売りつけたアメリカの核戦略は、核拡散防止の精神と逆行しています。にもかかわらずそれが進められたのは、旧ソ連と対抗して同盟国を取り込む必要があったからだと言明されることが多いと思います。私はこれに加えて、アメリカの原子力産業の存続を図るための経済的要因があったのではないかと考えています。産業というのは、工場施設と技術者を常に維持しておかなければなりません。軍事需要だけでは定常的な濃縮ウラン需要が維持できないがゆえに、原発輸出を指向したのではないのでしょうか。
34		88	質問	福島原発の現状	福島原発「原子炉」内で現在起こっている状況について推測で教えてください。	野田前首相が終息を宣言しましたが、とてもそんな状態ではないでしょう。しかし、溶融した燃料がどこにあるかわかっていない状態が続いているようです。まさに、原発という技術の不確実性を如実に示している事態です。どうなっているのか、どうしたら良いかわからない状態が続いています。4号機の使用済み核燃料プールは、依然として一触即発の危険な状態です。大きな地震で壊れたら、現在の汚染どころではなく、首都圏全てが壊滅するくらいの汚染が起きると考えられています。一刻も早く、燃料棒を別の場所に移すことが求められていますが、なお数年かかると思われるようです。
35		89	意見	中エネへの要望	今までに4回市民会議に参加しました。今までに知ったこと、強く感じたこと、1人2分で言わせてほしい。内容は意見でも質問でも感じたこと何でもいい(もちろん間違ってもおかまいなし)50人×2分=100分、2時間以下ですね。	—